

産業振興に関する取組事例: 利尻島(人口: 5,627人) [北海道利尻富士町]

<名水ファクトリー>

- 廃校となった小学校の建物を利用した天然ミネラルウォーターの生産工場で、建物は町が無償で提供。
- 離島活性化交付金(国土交通省の離島振興法に基づく交付金)の輸送コスト支援の戦略産品(移出:水、移入:ペットボトル)に町が指定。
- 年間101千ℓを出荷し、その約80%がネット販売。



工場の外観



商品の外観

産業振興に関する取組事例：奥尻島（人口：3,033人）[北海道奥尻町]

< (株)奥尻ワイナリー >

- 奥尻島において自社で栽培したブドウを活用してワインを醸造。
- ワイナリーの中は見学も可能で島の新たな観光資源として活用。
- ワイン専用ブドウの栽培農家を募集し、奥尻島の人口増加に貢献。



工場の外観(奥尻ワイナリーHPより)



ワイナリー内部の様子(奥尻ワイナリーHPより)

株式会社奥尻ワイナリーの企業理念等
(奥尻ワイナリーHPより)

■企業理念(抜粋)

「奥尻島の振興に寄与する。」

■ワイン製造理念

「奥尻島が育む葡萄で、世界中の人々に愛され続けるワイン造りに邁進する。」

- ・奥尻の知名度向上を図る。
- ・奥尻観光に向けた新たな「奥尻ブランド」を創る。
- ・雇用の場を広げる。



- 専業農家を目指す方
- 奥尻ワイナリーの畑で就労したい方
- 島でのんびり暮らし + ぶどう栽培したい方

※詳細については、打ち合わせさせていただきます。

ワイン専用ブドウの栽培農家の募集
(奥尻ワイナリーHPより(H28.11.2時点))

産業振興に関する取組事例:佐渡島(人口:57,262人)[新潟県佐渡市]

<(株)佐渡乳業>

- 佐渡島の全酪農家(14戸)が生産する良質・安全な生乳を使用し、乳製品を製造。
 - 飲用乳の消費量の減少傾向を受け、バター・チーズ等の乳加工品については島外販売に力を入れている。
 - 食品展示会(FOODEX JAPAN)等で多数の賞を受賞し、全国ブランド化を目指して活動中。
- ※全戸が(公財)新潟県畜産協会の「クリーンミルク生産農場」(HACCP方式を取り入れた農場)の認定を取得



工場



商品(佐渡乳業HPより)

産業振興に関する取組事例:佐渡島(人口:57,262人)[新潟県佐渡市]

<(株)尾畑酒造(学校蔵)>

- 佐渡島を代表する蔵元の1つで、商品の「真野鶴」は国内販売のみならず、エールフランス航空等の国際線でも提供されている。
- 2014年5月から、廃校となった校舎を利用・自然再生エネルギーも導入し、酒造りを行う「学校蔵プロジェクト」がスタート。佐渡産米を使用し、佐渡産の杉材の香りが膨らむ酒は、2年間で販売量が大幅に伸びている。
- 酒造り体験の希望者を約1週間受け入れる取り組みや、学校蔵に島内外の人が集い、佐渡から日本の未来を考えるという切り口でディスカッションする「学校蔵の特別授業」を行っている。



学校蔵(旧西三川小学校校舎)



商品(尾畑酒造提供)

産業振興に関する取組事例：八丈島（人口：7,613人）[東京都八丈町]

<八丈島漁業協同組合女性部>

- 八丈島漁協女性部では、加工品生産を主体とした「八丈産おさかな研究会」を平成16年に設立。子どもたちに安全で安心な島の魚を食べてほしいとの考えのもと、魚の加工場を立ち上げ、すり身や切り身など給食向けの食材加工を開始。
- 漁師の奥さん達を中心に、夫（漁師）が収穫した鮮魚の一部を加工し、島外にも移出している（現在、年間売上約9千万円）。また、島外の学校へ出前講座を行うなど、魚食普及活動を行っている。
- 一定期間日持ちのする加工品とすることで収穫した鮮魚を無駄なく販売につなげることができるほか、新たな雇用を創出。子育てを終えた女性が中心であるが、外国から嫁いできた女性の働く場ともなっている。



八丈島漁業女性部の皆様



「八丈産おさかな研究会」外観



「八丈産おさかな研究会」の加工商品
ムロアジ餃子(左) 飛魚すりみ(中央) ムロアジメンチカツ(右)

(八丈島観光協会HPより)

産業振興に関する取組事例：中ノ島（人口：2,353人）[島根県海士町]

<CAS凍結センター>

- CASとは細胞組織を破壊することなく凍結できる技術で、一度CASで凍結させれば、保存はどのような冷凍庫でもできるようになるもの。
- CASの凍結機を海士町が購入し、第三セクターを組織し、その三セクがCASの運用及び管理を実施。
- 三セクには、海士町から職員が出向し、CASで凍結した水産物等の販路開拓も実施。
- 三セクが地元の雇用を生み、海士町における新産業創出の一翼を担っている。



CAS凍結センターの外観



CASで凍結された海士町名物白イカ
(海士町HPより)

教育に関する取組事例：中ノ島（人口：2,353人）[島根県海士町]

<島前高校魅力化プロジェクト>

- 地域の公営塾として、隠岐國学習センターを設立し、一人一人にあった学習を支援。
- 海外や都市部といった地域からの留学生の受け入れや、当該地域への留学を支援。
- 遠征費を補助するなど、レスリング等の部活動を支援。
- 高校魅力化プロジェクトにより、平成28年4月現在、生徒の約半分（全校生徒180名）を島外から受け入れ。



隠岐島前高校の外観
(隠岐島前高校HPより)



島外の生徒を受け入れる寮
の外観



隠岐國学習センターの外観
(島前高校魅力化プロジェクトHPより)

産業振興に関する取組事例：対馬（人口：31,457人）[長崎県対馬市]

<（株）翔栄のシイタケのブランド化>

- 地元の建設会社が、第二創業として、異業種参入し、シイタケ栽培を実施。
- ブランディング化に成功し、建設業を含めたグループ全体の売上の15%強がシイタケ。

《具体的な内容》

- 対馬の原木並びに清廉な湧水及び空気の活用に加え、徹底した温度管理により高品質のシイタケを栽培し、結果、ブランディング化に成功。
- 通年栽培できる設備により、8月以外の出荷を可能とし、安定供給を図っている（通常、シイタケは秋～冬の栽培。）。
- 建設会社から事業を上げた第二創業。社長自ら全国に足を運び、販路を開拓。
- シイタケ製品（生、干し）の他、スープなども生産している。圃場の古くなった原木を肥料に変えるなど、無駄なものが出ないように工夫。

《雇用に対する取り組み》

- 現在、社員を島内から雇用し（昨年度は3名。）、正社員は18名、パート11名 計29名（H28.11.11時点）。
※また、毎年11月から4月にかけて原木伐採運搬に季節雇用者10名前後を雇用中。
- 今後、島外の人にも採用したいとの意向。



人材育成に関する取組事例：小値賀島(人口：2,692人)[長崎県小値賀町]

<(一財)小値賀町担い手公社の農業研修制度>

○農業で自立を目指す農業後継者や新規就農希望者等を受け入れて、農業技術や経営手法等の研修を実施することにより、農業の「担い手」を育成することを目的としている。

《研修条件》

- 農業に対する強い意志と意欲があり、研修終了後も引き続き小値賀町内に居住・就農すること(5年間従事条件)

《具体的な内容》

- 飼育管理や栽培技術、農業簿記等の実践的な研修を、公社の各種作業への従事や、講習等を通じて実施。
- ミニトマト、メロン、ブロッコリー、カボチャ、水稻、その他の栽培実習
- 農業の基礎知識に関する学科研修(年6回) など

《研修期間中の待遇(3年間)》

- 月額16万円の生活支援金の支給(配偶者や子供の別途手当あり)
- 町営住宅、空き家の住宅斡旋 など



観光に関する取組事例：小値賀島(人口：2,692人)[長崎県小値賀町]

○NPO法人が島内調整等を、株式会社が古民家ステイ・レストラン事業の展開及び観光客のワンストップ窓口等を行うことにより、観光地域ブランドが確立され、島内での新たな雇用を創出。

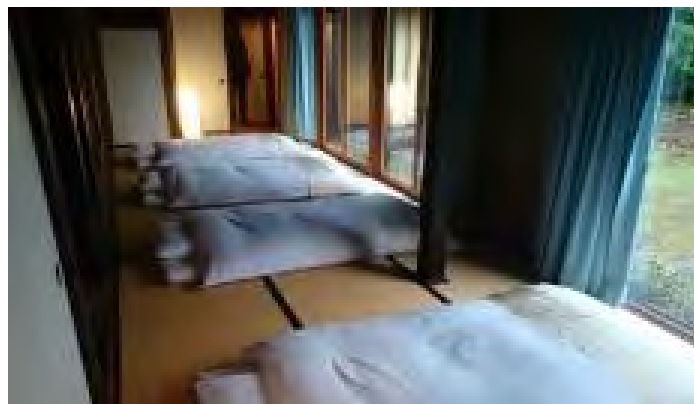
《具体的な内容》

地域資源を活用した取組

- 空き部屋を活用した民泊事業を実施し、農業・漁業の副収入を創出。
- 6軒の古民家ステイ、古民家レストランなど、大人をターゲットにした旅行メニューを提供し、女性向けのwebサイトなどで発信。
- 特産品開発を担う一般財団法人が、島の資源を活用した商品開発の担い手として、落花生そうめん、クッキーなど島の資源を活用して商品開発。
- 無人島になった野崎島を舞台に野崎島ガイドツアーを実施し、廃校をリニューアルした野崎島自然学塾村への宿泊やカヌー、磯遊び、巨石トレッキング等の体験が可能。
- 「島旅コンシェルジュ」が、来島者のニーズに合わせ、体験プログラム、宿泊等を組み合わせたオリジナルプランを提供。



農家などで島暮らしの体験ができる「民泊」
(出典) 月刊事業構想2015年1月号



古民家ステイの宿



旧野首協会(野崎島)

<島の漁師の朝飯>

- 上五島の宝の海から水揚げされる新鮮な魚介類を、豪快な漁師スタイルで食べる島ならではの朝食を提供。
- 魚のアラを使った大鍋で作るお味噌汁、ブリ・ヒラス等の新鮮なお刺身、アジの開きなど季節の魚の干物、ご飯など。
- 朝食前に魚市場競り風景の見学も。
- 15～50名の団体を受け入れ。観光大型バスの駐車場有り。



魚のアラのお味噌汁

ヒラス(ヒラマサ)のお刺身



旬魚の塩焼き

産業振興に関する取組事例:種子島(人口:31,865人)[鹿児島県中種子町]

<(株)島のタカラ>

○島の活性化を目的に平成26年に設立。希少な大型ガニのノコギリガザミの養殖や、ナガラメ(トコブシ)の養殖、島バナナやパッションフルーツの栽培を行い、島内での新たな雇用を生み出している。

《具体的な内容》

- 旧ゴカイ養殖場跡地を買い取り、整備して、島にも自生しているノコギリガザミ(ワタリガニの一種で、味は濃厚で美味)の養殖を開始する。
- 試行錯誤しながら育成を行っていたが、現在は岡山理科大の協力も得ながら育苗から進め、成果も上がってきており、飲食店への出荷や食事もできるレストハウスもつくっている。
- つなぎ資金となるよう始めたナガラメ(トコブシ)の養殖が、種苗放流よりも高い育成率となっており、こちらも期待ができる。
- 島バナナやパッションフルーツといった農園事業も手掛けており、島内での雇用確保、地域活性化に対する期待が高まっている。



ノコギリガザミ養殖



トコブシの養殖



レストハウス(タカラの駅)